

色えんぴつ

～それぞれの色、それぞれの個性を大切にしよう～



草津中学校
第2学年
学年通信

NO.6
2020.8.5

夏休みに入ります 「家庭学習の定着を」

明日から13日間の夏休みに入ります。夏の風物詩である花火大会やお祭り、海開き等が相次いで中止となり、あまり楽しい夏休みとは言えないかもしれません。また、いつもより短い夏休みのため、合唱コンクールの指揮者、伴奏者の練習や補充教室といった、例年通りの取り組みも行えない状況です。少しでもこのわずかな夏休みを楽しみ、そして有意義なものになるようにしてほしいと思います。

夏休み明けの8月20日(木)には、つまずき発見テストが実施されます。その後、個別にテストの結果票を渡します。個票から学習のつまずきを発見し、学び直しをする内容を担任の先生と相談をします。教育相談の時間を設けますので、学習に不安を感じている人は遠慮なく相談をしてください。その後、個別に必要な学習教材を渡します。基本的には家庭での学習となりますが、しっかり教材に取り組んで、学び直しとなる部分を補いましょう。2学期からは進路選択に向け、1年生の範囲から学び直しを行う学習教材の取り組みがスタートします。習慣づけた毎日の家庭学習がとても大切になるので、この夏休みにつまずき発見のための学習にしっかりと取り組みましょう。



合唱コンクール 「精一杯取り組んで成功させよう」

今年度は新型コロナ拡散防止対策により、学年合唱はなくなり、クラス合唱のみでの開催となります。学年合唱、指揮、伴奏を頑張ろうと思っていた人、例年通りの合唱コンクールを開催することができず、本当に残念に思います。私も2年生の学年合唱で「平和の鐘」を歌い、来年の修学旅行では、沖縄の平和祈念公園で祈念の形で合唱をすることを願っていました。ですが、練習が始まったら気持ちを切り替えて、この合唱コンクールという機会を大切にしてほしいと思います。クラスメートと協力し、クラスの団結力をより強め、それぞれのクラスのよさを発揮してほしいと心より願っています。

	曲 目	指揮者	伴奏者
1組	輝くために		
2組	モルダウ		
3組	時の旅人		
4組	君とみた海		
5組	旅立ちの時 ～Asian Dream Song～		
6組	世界をかえるために		
7組	キミのもとへ・・・		

8月の予定

日	曜	1	2	3	4	5	6	弁当	行事等
19	水	式	火5	火6	学活				②火5③火6の授業
20	木	国テ	数テ	○	○	○	○	○	①②つまずき発見テスト
21	金	○	○	○	○	○	○	○	
24	月	木1	木2	木3	木4	木5	木6	○	木曜日課
25	火	○	○	○	○	○	○	○	
26	水	○	○	○	○	○		○	
27	木	○	○	○	○	○	○	○	1234組 内科検診
28	金	○	○	○	○	○	○	○	
31	月	○	○	○	○	○	○	○	

※部活動の完全下校は17:30です

8月19日（水）の予定

①始業式（放送） ②火曜日5校時の授業 ③火曜日6校時の授業 ④学活

持ち物 夏休みの宿題（国語）・上靴・夏休みのしおり・デザインセット
お弁当は必要ありません（つまずき発見テストの教材は20日に提出）

保護者の皆さまへ

先日はお忙しい中、三者懇談会にお越しいただきありがとうございました。分散登校で始まった1学期も本日最終日を迎えます。一斉登校が6月に再開してからこの2ヶ月間、生徒たちは学級で協力しながら学びを止めないように一生懸命学習に取り組んでいました。授業を参観する中で、2年生の良い所をたくさん再発見しました。人権学習では、欠席の生徒の分まで机を合わせてグループ活動に取り組む様子が見られました。その場にはいない人も、仲間として受け入れている姿勢に心が温まりました。

教科の学習に限らず、積極的な姿勢で授業に取り組み、意欲的な発言や建設的な意見を述べる事ができる生徒が非常に多い学年です。コロナ禍で授業参観ができない中、2年生の授業の様子を知っていただきたく、少し紹介させていただきます。私は美術科の教師ですので、美術の授業の様子と生徒の感想を一部掲載させていただきます。裏面をご覧ください。

今学期は末に校外学習へ行く予定をしていました。京都にある立命館大学平和ミュージアムで平和学習を行い、来年の修学旅行へつなげる予定でした。今後の総合的な学習の時間で平和学習を進め、修学旅行では、国内で唯一の地上戦があった沖縄の地で学習の結びを行う予定をしています。

平和について、忘れてはいけない4つの日はご存じでしょうか。「6/23 沖縄慰霊の日」「8/6 広島原爆の日」「8/9 長崎原爆の日」「8/15 終戦の日」です。夏休み期間中に、内3つの日を迎えます。平和について考えられる機会になればと、夏休みに入る前に美術の授業で平和について考える鑑賞の授業を行いました。

今回お子さんが学んだことを話されたり、問いかけなどがあつたりしたときは、親子で平和について語る機会にさせていただけると幸いです。少しでもこの夏休みが、平和について考える機会になればと願っています。どうぞよろしくお願いいたします。

裏面に美術の授業で取り組んだ鑑賞+平和学習の内容と、生徒の感想を記載しています →

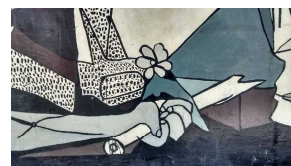
【授業】美術の鑑賞 + 平和学習

「ピカソのゲルニカを鑑賞して、戦争について考える」

ピカソは有名な画家ですので、ほとんどの生徒が知っています。しかし、知っている人ほど「変な絵を描く人」といったイメージをもっているかもしれません。また「ゲルニカ」も同じく有名な絵画ですので、どこかで一度は見かけたことがある作品です。美術の教科書には4ページを使って見開きで大きく掲載されています。その「変」かもしれない絵がなぜ、こんなにも有名で大きく取り上げられるのでしょうか？

美術の授業では絵の見方は教えません。絵を見る時に見方はありません。見方や感じ方は人それぞれで、自分自身が感じたことを、素直に大切にすることが一番理想です。しかし、自身の感じ方だけでは、偏りがあるかもしれません。横で同じ絵を見ている人が違う印象をもっていれば、なぜそう感じたのかを聞いてみることで、自分の見方や感じ方が広がるかもしれません。一枚の絵を一時間、じっくり眺めてみたり、何が描かれているのか考えてみたりする機会はそう多くはありません。今回の鑑賞では次の3点のめあてを立てて、じっくり眺めてじっくり考える授業に取り組みました。

- 作品をみた自分の思いや考えを大切にすることができる
- 他の人の意見を大切に、いろいろな感じ方を楽しむことができる
- 作者の想いを知り、多様な表現の方法を理解することができる



ゲルニカを見た第一印象ですが、多くの生徒が「怖い」「気持ち悪い」「ぐちゃぐちゃ」といった印象を受けていました。時間をかけて細部まで何が描かれているか観察し、その後何をテーマに表現されているか考えました。「ゲルニカ」のタイトルが、戦時中に空襲を受けたピカソの祖国であるスペインの街の名前であるということを知り、戦争の絵だということに気づきました。そこで、この絵のどこに戦争を感じるのか考え、ワークシートのゲルニカに赤ペンで○印をつけました。なぜその場所を選んだのか、5人程の班を編成し、自分の意見を発表しました。人によって、○をつける場所は様々なため、それぞれに選んだ視点が異なります。「なるほど」「すごい」といった、自分とは違う意見に驚く声が聞こえ、見方や感じ方を広げている様子が見られました。

ミレーの「オフィーリア」と「ゲルニカ」を比較鑑賞し、表現方法や受ける印象の違いから、なぜピカソがこのような描き方をしたのかを考えました。生徒たち自身の気づきを大切に、絵の解説などはないまま授業を終えています。生徒からは「戦争のことを考える機会になった」「この絵を未来へ引き継いでほしい」といった感想が多く見られました。これから夏休みに入ります。終戦を迎えるこの時期に少しでも戦争について考えるきっかけになれば大変嬉しく思います。



ミレー「オフィーリア」



ピカソ「ゲルニカ」

学習を終えて 「生徒の感想」

- 私はピカソが適当な絵を描いて、それをみんなが過大評価しているとばかり思っていたけれど、今回の授業を受けて見方が大きく変わりました。この絵を見て抱く「気持ち悪い」という感情は、あっちはいけないと思っていたけれど「気持ち悪い」という思いこそがピカソの伝えたいことで、戦争への思いなんだなと思いました。
- 初めて見た時はただ「怖い絵」という印象しか受けなかったけれど、タイトルを聞いたり、この絵に込めた思いなどを聞いたりすると、この絵には平和を願っている私たちの思いが詰まっているということが分かりました。
- ピカソの反戦への思いをもっと未来へ受け継いでいかなければいけないと思った。
- 始め絵を見たときは、何も思わなかったけれど、描いてある物や色、人の顔を見たり他の絵と見比べてみると、作品の意味とか中の人、動物、物の意味が分かって作者の思いがとても伝わってきた。文字も言葉もないのに、これだけの気持ちを見る人に伝えられるのは絵のすごいところだと思った。
- 一つの絵にここまで心を動かされるのかと驚いた。このぐちゃぐちゃなように見える絵の一つ一つのところが強い意味、メッセージを持っていることを知った。
- こんなに絵から色々なことを感じたことは初めてで、感動した。
- これからもこの絵が戦争を止めてくれる一つになればいいなと思います。
- 作者の思いを知って絵の見方がだいぶ変わった。絵のパーツ一つ一つに気持ちが込められている気がして、ピカソが描いたこの絵はまだ生きているんだと感じた。戦争についてもう少し考えてみようと思った。
- 戦争は絶対に起こってほしくない。日々普通に過ごせていることを感謝しながら生きようと思いました。
- 昔の戦争で死にたくないのに死んでしまっただけで楽しいこともたくさんあったと思うけれどできなかったから、今この時代で「死にたい」と言う人もたくさんいるけれど、まだまだたくさんの希望に満ちているのだから、昔頑張ってくれた人たちの分までしっかりと人生を送ろうと思うことができました。昔の人々に感謝することを忘れず受け継ぐことが大事だと思いました。
- まず戦争はよくないということを再度戒められた。絵には大きな戦争を止めたり、動かしたりすることもできるということが今日の学習でわかった。これからも戦争を起こさないために自分自身が考えて行動する。それが絵でも、声でも、動画でも、止めていけるなら行動していきたいと思います。
- 作品を通してメッセージを伝えることができるのはすごいと思った。交流することでよりたくさんの思いを感じることができた。「絵」は色がある方が分かりやすいと思っていたけれど、あえて無しにすることで伝わることもあるのだなと思った。
- ピカソの工夫を知ることによって、自分の作品にも自分の思いを入れられるようにしたい。友だちの意見、みんなの意見を加えていくと最終的に結論に近づいたのでおもしろかった。
- ピカソの思いがよく伝わったし感動した。戦争に対する悲しい思いなどもよく伝わったし、いい時間だった。見方を変えるまではこの作品の本質に気づけなかったけれど、先生や友だちの意見を聞くと、考え方、見方がとっても変わって新しい世界が見えた。
- ぱっとこの絵を見たとき、「気持ち悪い」「なんだか怖い」という気持ちが真っ先に出てきました。その感情をほとんどの人に持たせる絵を描くピカソはすごいし、戦争がテーマの作品だと聞いて、絶対にしたくないと思いました。人や動物をリアルに描かず、白黒で描いても残酷な感じが伝わってきて、最終的には感動するような気持ちへと変わりました。
- この絵は見る人に様々な印象を与える。いい情景ではないけれど、今戦争というものが忘れかけている社会や、はるか先の未来でもこの絵は必要だと思った。もう一度戦争について考えるいい機会になった。この絵でみんなが受けた怖いという感情は忘れてはいけない。



芸術は、飾りではない。敵に立ち向かうための武器なのだ。
—パブロ・ピカソ

